

さとひがし



☆自ら学び、心豊かで

たくましい子どもの育成

「み」 自ら学ぶ子

「や」 やさしく思いやる子

「げ」 元気な子

大津市立仰木の里東小学校 学校だより 11月号

令和5年11月7日



運動会でのあたたかい声援 ありがとうございました

10月の運動会では、最後まで温かい声援を送っていただき、ありがとうございました。

久しぶりに全校児童が運動場に集まり、たくさんの保護者や地域の皆様に見守ってもらっている中で、子どもたちが精一杯の演技や競技を披露できたことをとても嬉しく思っています。

どの学年の子どもたちも、練習の成果を大いに発揮し、「失敗を恐れず、真剣に、本気で」走ったり、跳ったり、投げたり、転がしたり、引っ張ったり、応援したりすることができました。全校児童が、このすばらしい半日を一緒に過ごし、どの子も前向きにチャレンジできたことが何よりの成果であると捉えています。今後も、引き続き、ご支援、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

【夢の講演：大山加奈さん よわっちいことを見せる勇気】

仰木の里学区青少年育成学区民会議の皆様にお世話になり、今年度も、5・6年生を対象に「夢の講演」を開催いたしました。今年度は大山加奈さんが、ご講演くださいました。

元全日本代表である「パワフル・カナ」こと大山さんは、長い間超一流のバレーボール選手として活躍してこられました。高校生で日本代表に招集され、アテネオリンピックにも出場を果たされましたが、様々な挫折を味わい、持病である腰痛とも闘ってこられたというお話は、心の奥底に響く、深い内容でした。

お話を聞いていて、私が一番心に残っているのは、オリンピックの代表合宿から逃げだそうとされた場面です。その時、「急に家に帰ったら、両親が何かと驚くだろう」と、事前にご両親と、一番お世話になった高校の恩師に連絡されたそうです。「もうやめて帰りたい」と伝えられたところ、まず、恩師は、「おまえには、スポーツ選手は向いていない。やめたいんだったら、やめたらいいよ」と、そして、ご両親は、「バレーは、つらい思いをしてやるもんじゃな。帰っておいで」と応えられたそうです。

オリンピックを目前に控えていた大山さんはその反応に驚いたということでしたが、「おかげで、もう一度がんばってみようという気持ちになれた」とのことでした。一番信頼する人に、弱音（よわっちいこと）をはき、それを受け止めてもらえたことで、もう一度がんばる力がわいてきたのでしょう。

大山さんは「よわっちいことを見せるのは勇気がある。でも、つらいこと、苦しいことを周りの人に話をする勇気を持ってほしい」と、何度も子どもたちに伝えておられました。大山さんのご両親や恩師の先生と同じように、私たち大人は、子どもが「よわっちい姿」を見せたときには、まずは、そのしんどさを受け止め、その後「どうしていくとよいか」と、相談に乗る姿勢を持ってほしいものです。

本当にすばらしい講演でした。大山様、そして学区民会議の皆様、本当にありがとうございました。



【おしらせとお預りい】 11月から、老人クラブの皆さんと、ポッチャをとおした交流を予定してします。報道機関等より取材が入るかもしれません。先日、「個人情報に関する取り扱いについて」のお願い文書を配布したところですが、不都合等がございましたら担任までお知らせください。